

小学校における「土曜日等の教育活動」のあり方

教職実践開発専攻（学校改善コース） 高橋 雅博

1. はじめに

「学校週5日制」は、学校・家庭・地域の三者が互いに連携し、役割分担しながら社会全体として子供を育てるという基本理念の下、平成14年度から完全実施された。しかし、「土曜日を必ずしも有意義に過ごせていない子供たちも少なからず存在する」との指摘（H25.6.30文部科学省「土曜授業に関する検討チーム」中間まとめ）があったり、一部の地域において「土曜授業」を実施されたりすること等がきっかけとなり、学校教育法施行規則が一部改正（H25.11.29公布・施行）された。そして、設置者の判断による「土曜日の教育活動」の実施が可能となった。

岐阜市は、平成26年度から市立全小・中学校において、年間10回の「土曜日等の教育活動」の実施を開始した。しかし、始まった当初は、「出席扱いの基準」や「地域行事等との調整」等の「設置者が解決すべき課題」や、「方向性やねらいが不明確」「どのように行えばよいのか」「何を行えばよいのか」等の「学校が解決すべき課題」が多くあった。

全国で「土曜日の教育活動」実施の動きが広がりつつある中で、勤務校である岐阜市立加納小学校が「土曜日等の教育活動」を円滑に運営していくために、どのような運営システムを構築し、どのような教育活動を行えばよいのかについて実践研究を進めた。

「土曜日等の教育活動」を円滑に運営していくシステムや方法、内容を開発し、実践、明示していくことによって、次のような意義をもった活動を実現できると考えた。

- 学力向上を図ったり、豊かな体験活動を提供したりすることによる、児童のためのより豊かで有意義な土曜日の実現
- 特色ある教育活動や、開かれた学校づくりの実現
- 家庭・地域との連携協力による教育活動づくりの実現

2. 研究内容

「土曜日等の教育活動」を実施する中で、教育内容や実施方法等の課題が明らかになってきた。そこで、実態を把握するために、勤務校を含めた実地調査や、児童生徒及び教職員を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、「土曜日等の教育活動」を円滑に運営していくためのシステム構築や教育内容の開発が必要であることが明らかになった。そこで、以下の3点を柱として実践に取り組んだ。

- (1) 「土曜日等の教育活動」のねらいの明確化と理念の確立
- (2) 円滑に運営するための「土曜授業コーディネーター」を中心とする運営システムの構築
- (3) 「学力向上」「豊かな体験活動」「開かれた学校づくり」「地域等との連携・協力」を内容とする「土曜日等の教育活動」のプログラムの開発

(1) 「土曜日等の教育活動」のねらいの明確化と理念の確立

「土曜日等の教育活動」は、学校の教育目標の実現に寄与できるものとしてとらえ、平日の授業との関連をもたせ、教育課程内の教育活動（土曜授業）として実施した。

「平日の授業との関連」とは、土曜授業が、平日の授業を補充する役割をもったり、土曜授業が、平日の授業の延長上の存在になったりすることを意味する。そして、この理念に基づき、ねらいを「児童のためのより豊かで有意義な土曜日の実現」と設定し、全職員共通理解の下で実践に取り組んだ。（図1）

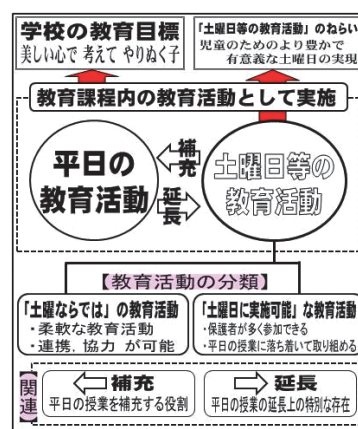


図1 「土曜日等の教育活動」の理念

(2) 「土曜日等の教育活動」を運営するためのシステム構築

①校内システムの見直しと改善

「土曜日等の教育活動」を円滑に運営していくために、「土曜授業コーディネーター」を中心に位置付けた組織を編成した。学校長と教員をつなぎ、授業の立案・計画し、円滑な運営の指示を行った。（図2）

②地域人材（学習支援ボランティア）が参画する授業づくりのためのシステムの構築

「土曜授業コーディネーター」が、学校運営協議会やPTA執行委員会の一員となり、教育活動の内容を提案したり、協議したりした。また、PTAや外部団体等との渉外活動にも取り組んだ。そうすることで、コミュニティ・スクールに学校支援地域本部の機能をもたせ、校外のシステムと協働した教育活動を展開できるようにした。（図3）

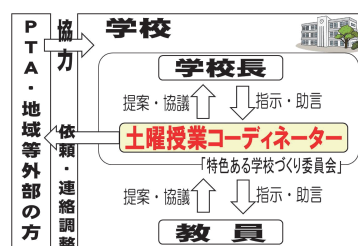


図2 学校内のシステムの構築

(3) 「土曜日等の教育活動プログラム」の開発

教育プログラムを4つの具体的方策「①学力向上」「②豊かな体験活動」「③開かれた学校づくり」「④連携・協力」に分類した。また、教育効果の視点から、「土曜日等の教育活動」を、「土曜ならではの教育活動」と「土曜日に実施可能な教育活動」の2種類に定義付けた。

この2つの教育効果が十分機能するように、教育活動プログラムを表1のように均等に配置し、表2のように「土曜日等の教育活動」の計画を立てた。

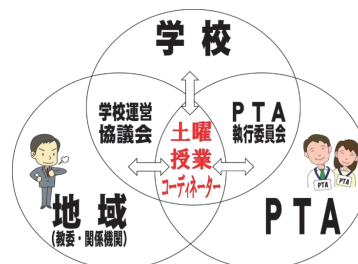


図3 校外のシステムとの協働

表1 具体的教育活動プログラム

	授業(教科等)	特別活動
方策①	・補充学習(学習支援ボランティアの活用) ・教科等研究発表会	・特別活動等研究発表会
方策②	・おもしろ科学教室等出前講座の活用	・各種出前講座の活用 ・「命の学習」「犯罪被害防止教室」等
方策③	・学習参加(授業参観) ・創作オペラ(総合的な学習の時間)の公開	・1年生を迎える会 ・運動会・校内音楽会 ・6年生を送る会
方策④	・生活科および総合的な学習の時間(学習支援ボランティアの活用)	・地域合同防災訓練 ・引き渡し訓練

回	実施日	教育活動内容
第1回	5月9日(土)	1年生を迎える会・授業参観・PTA総会
第2回	6月6日(土)	補充学習①・出前講座①(おもしろ科学教室)・親子掃除・引き渡し訓練②
第3回	6月27日(土)	中間研究発表会(教科・道徳・特別支援教育)・創作オペラ公開
第4回	9月6日(日)	加納東地区「地域合同防災訓練」
第5回	9月19日(土)	運動会
第6回	10月3日(土)	補充学習②・出前講座②(命の学習・犯罪被害防止教室)・通常参観
第7回	11月21日(土)	中間研究発表会(学級活動・教科・道徳・特別支援教育)
第8回	12月5日(土)	校内音楽会
第9回	1月16日(土)	補充学習③
第10回	2月27日(土)	6年生を送る会・出前講座③(光る消しゴムづくり)④(ペーパークラフト)

※「土曜ならではの教育活動」のとらえ(方策①④)

土曜日等にしか実施できない教育活動。「柔軟な教育活動が可能となる」「連携・協力がしやすい」等をねらいとする。

※「土曜日に実施可能な教育活動」のとらえ(方策②③)

平日でも実施可能だが、土曜日等に実施することでよさをもつ活動。「保護者が多く参観できる」「平日の授業に集中して取り組める」等をねらいとする。

3. 実践に必要な取組

(1) 土曜授業推進先進校および土曜授業実施校の視察

文部科学省の「土曜日の教育活動推進プラン」において「土曜授業推進事業」に指定されている県外の小学校や「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」に指定されている市内の小学校を視察し、土曜日等の教育活動の理念や望ましい教育活動の在り方を探った。

(2) 児童・保護者・教職員等対象のアンケート調査の実施

児童や保護者にとって意義のある教育活動にするために、随時アンケート調査を実施した。また、円滑な運営を図るために、教職員へもアンケート調査を行い、意識を把握することとした。

(3) 積極的な情報の発信

「土曜日等の教育活動」にかかわる情報を積極的に発信し、家庭や地域から更なる理解や協力を仰ぐこととした。

そこで、「土曜日等の教育活動」にかかわる記事を学校だより(図4)や学校ホームページに掲載し、情報を広く発信することで、家庭や地域住民から更なる理解や協力を得ることとした。



【図4 学校だより】

4. 実践

(1) 具体的実践①「補充学習」について

方策①「学力向上」として、「補充学習」を実施した。「補充学習」とは、補助教材を使用し、主に国語や算数の復習をする授業である。その際、保護者等を「学習支援ボランティア」として参画させ、きめ細かい指導と開かれた学校づくりにつなげようとした。以下に、第1回補充学習までのスケジュール(図5)と、土曜授業コーディネーターの役割(図6)を示す。

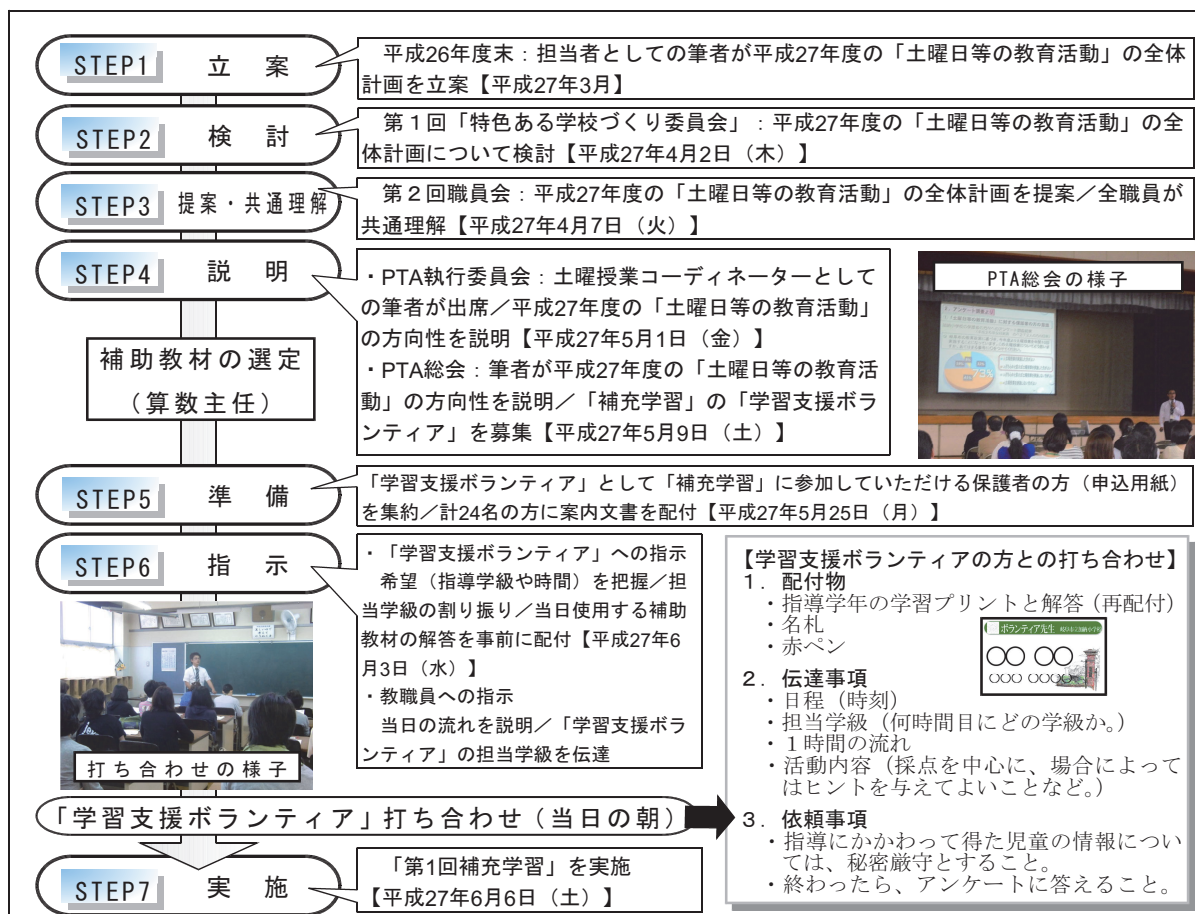


図5 第1回「補充学習」実施までのスケジュール

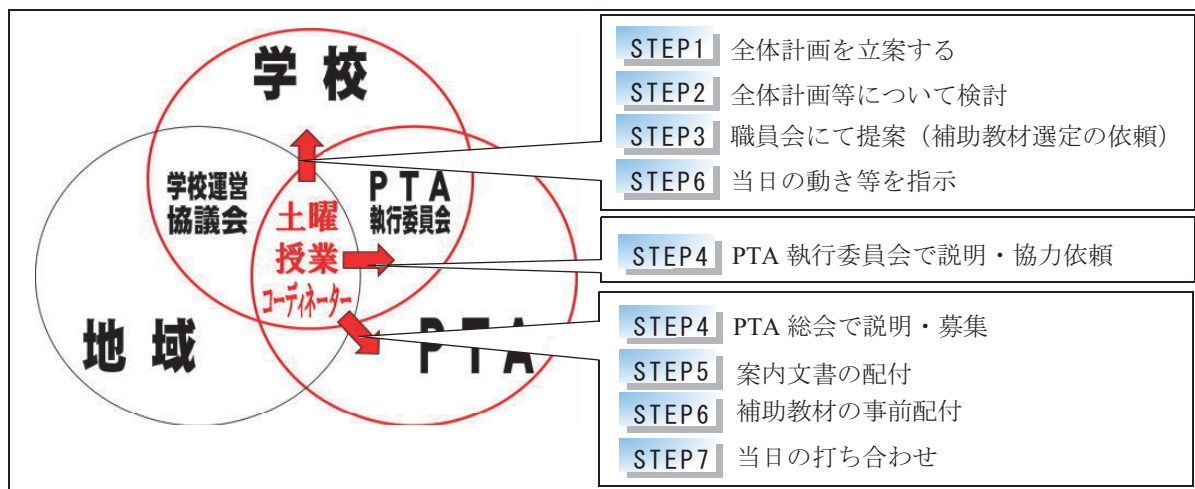


図6 補充学習における「土曜授業コーディネーター」の役割

平成27年度の「土曜日等の教育活動」は、平成26年度のものから内容を変えたり、PTAから理解や協力を得る必要があったりしたため、「土曜授業コーディネーター」としての筆者がPTA執行委員会に出席し、平成27年度の土曜日等の教育活動の全体計画について説明した。

PTA執行委員に分かりやすく伝わるよう、活動内容や方法を説明した。そして、翌週に行われるPTA総会において、保護者へ趣旨を説明する時間をもらえるよう依頼した。あわせて、PTA総会を、平成27年度の第1回「土曜日等の教育活動」に引き続いて実施することも承認が得られた。

また、PTA 総会の議事後、保護者に対して、平成27年度の「土曜日等の教育活動」の全体計画について説明した。昨年度（平成26年度）との違いを説明し、新たに取組もうとしている「補充学習」への協力依頼も同時に行った。

「補充学習」に「学習支援ボランティア」として参加する方を保護者に対して募集したところ、全保護者の約1割となる24名が申込用紙を提出した。保護者の希望を踏まえた上で指導補助学級の割り振りを行い、当日扱う補助教材（学習プリント「iプリ」）の解答を事前に配付した。そして、当日の朝、会議室において打ち合わせを行った。以下に、当日の日程（表3）と「補充学習」の様子を示す。

表3 「補充学習」当日の日程 ※平成27年6月6日（土）実施

	1・3・5年生	2・4・6年生	特別支援学級
朝の活動（8:20~8:40）	朝の会		
第1校時（8:45~9:30）	第1回「補充学習」	「おもしろ科学教室（出前講座）」	
第2校時（9:40~10:25）	「おもしろ科学教室（出前講座）」	第1回「補充学習」	親子行事
第3校時（10:30~11:10）	「全校親子清掃」		
短学活（10:35~11:10）	終わりの会		
放課後（11:30~12:00）	第2回「引き渡し訓練」（教室からの引き渡し）		

「補充学習」の前半は、問題を解く児童の様子を見守った後、学習プリントの答え合わせを行ってもらった。問題を解き終わった児童が、担当の「学習支援ボランティア」の所へ行き、採点してもらったり、価値付けてもらったりした。

「補充学習」の後半は、学習プリントの答え合わせを行いながら、問題につまづいている児童からの質問に答えたり、ヒントを与えたりする補助指導に取り組んでももらったりした。

以下に、「補充学習」を終えた後の児童および「学習支援ボランティア」の感想を示す。

【児童の感想より】

- ・5年生のころの学習だったから、いい復習になったし、ボランティアのお母さんたちから分かりやすく教えてもらえてよかった。（6年児童）
- ・ちょっと微妙だったところがよく分かって、満点を取ることができたからうれしかった。（5年児童）
- ・今まで習ったことを思い出しながらできた。自分のペースでプリントの問題を解くことができるからいいと思った。（4年児童）
- ・分からなかった問題ができるようになったし、「そうそう」「すごいね」と言ってもらえてうれしかった。（3年児童）



【「学習支援ボランティア」を務めた保護者より】

加納小では参観日を「学習参加」と呼ぶものの、今回は本当に「参加」させていただけるのがとても楽しみでした。本当に良い経験となりました。「コミュニティ・スクール」は勿論子どものための政策でしょうけれど、誰のためのものだろうとよく考えていましたが、保護者のためでもあると実感しました。保護者も学び、子どもにもそれが還元され、いい循環の結果が生み出されると良いと思いました。せっかく機会があるなら、一人でも多くの保護者の方が参加されるといいなと思います。どうもありがとうございました。

「補充学習」について全校児童対象にアンケート調査を行ったところ、図7のような結果となった。

全校的に見ると、84%の児童が満足していることが分かった。しかし、学年別に集計したところ、6年生は47.9%の児童しか肯定的な回答を示さなかった。他学年との差が大きかったため、6年児童の記述から要因を探った。「取り扱った教科（算数）への苦手意識」「教材の問題の難易度（簡単、難しい等の個人差）」「算数のみの実施であったこと」「恥ずかしい」等が要因であることが分かった。次回の「補充学習」においては、「複数教科にする」「教材の内容を工夫する」「学習支援ボランティアの配置を工夫する」等の改善に

取り組む必要があると考えた。

(2) 具体的実践②「地域合同防災訓練」

方策④「連携・協力」として、「地域合同防災訓練」を実施した。校区の地域では、毎年9月の第1日曜日に「防災訓練」を実施している。しかし、その訓練に参加する児童はほとんどおらず、毎年数名の6年生児童が参観するだけであるのが現状であった。そこで、防災訓練の内容を工夫・改善し、「土曜日等の教育活動」として実施し、地域住民と一緒に全校児童が参加できるようにした。以下に、地域合同防災

訓練実施までのスケジュール（図8）と、土曜授業コーディネーターの役割（図9）を示す。

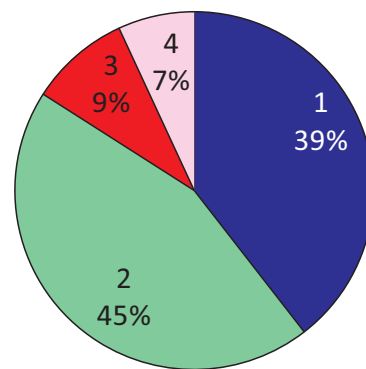


図7 「補充学習はどうでしたか？」に対する児童の回答の割合 (n=276)

■ 1: とてもよかった ■ 2: よかった
■ 3: あまりよくなかった ■ 4: よくなかった

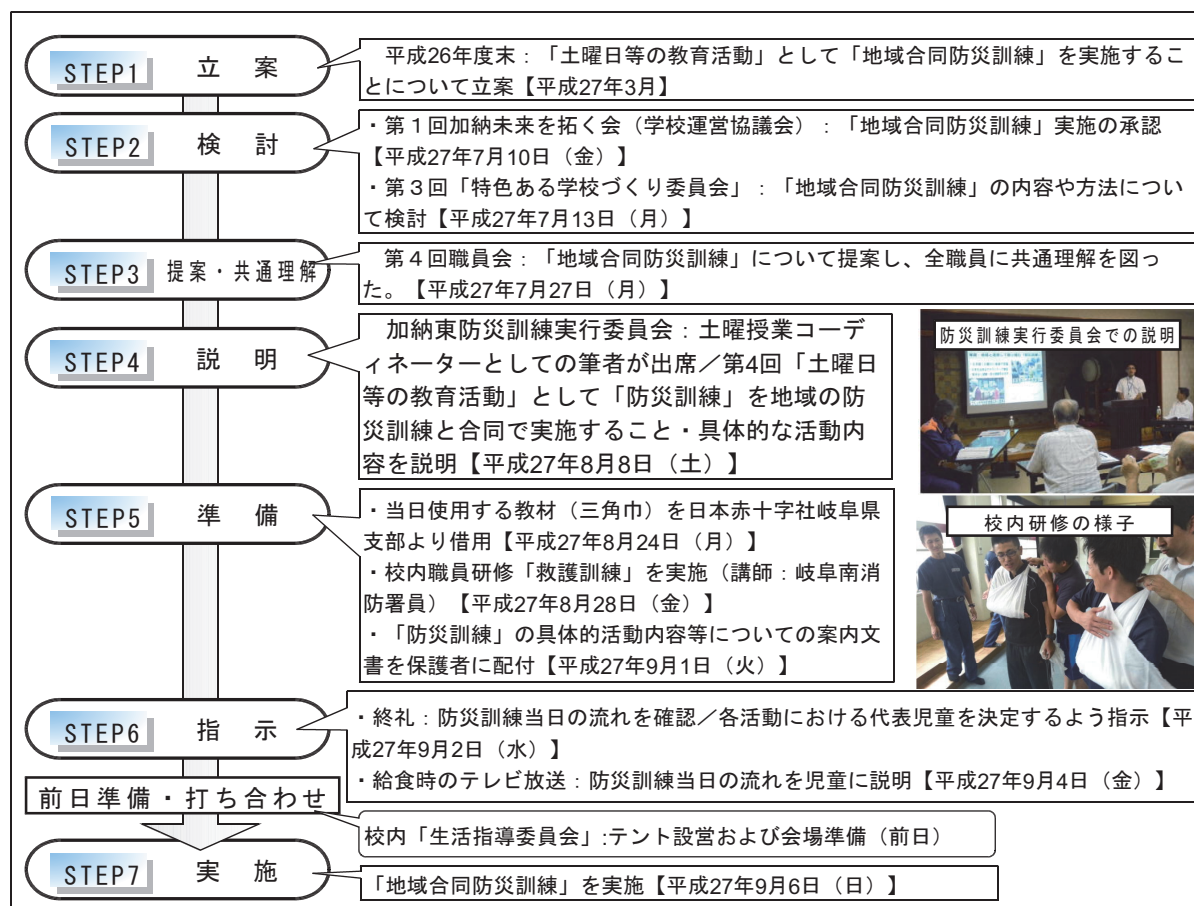


図8 「地域合同防災訓練」実施までのスケジュール

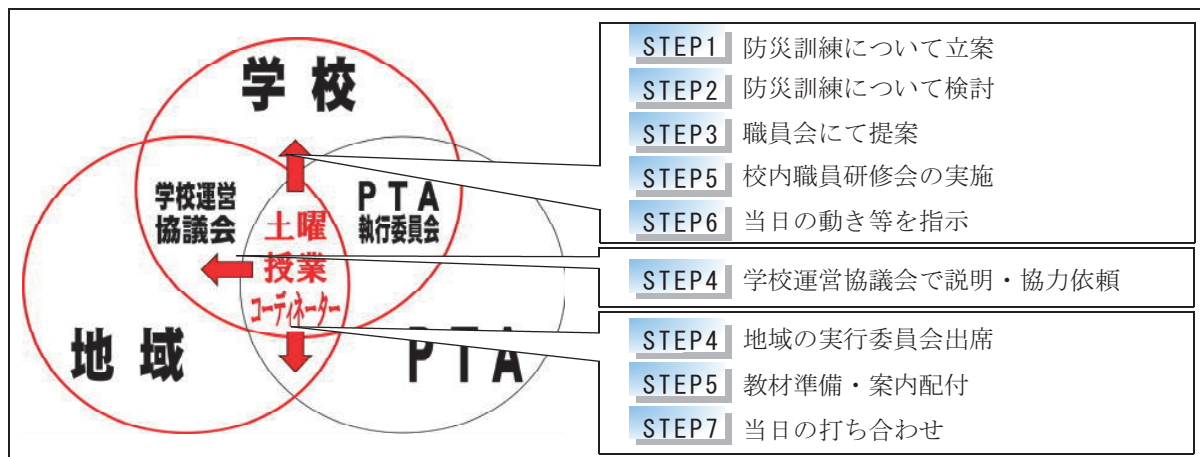


図9 防災訓練における「土曜授業コーディネーター」の役割

立案に関しては、学校運営協議会前に、地域の防災訓練の担当者（加納東自治会副会長）と連携しながら取り組んだ。学校に来てもらったり、消防署と一緒にでかけたりしながら「地域合同防災訓練」の内容を計画した。事前に担当者と打ち合わせを行うことで、学校運営協議会で具体的に提案することができた。

学校運営協議会で提案したところ、「児童の防災意識を高めるために教育過程内の教育活動として実施していくことは大変有効である。」「地域の高齢化が進む中、小学生の参加により、より多くの地域の方の参加を促すことができる。」などの意見をもらい、承認を得ることができた。

地域の防災訓練実行委員会に、「土曜授業コーディネーター」としての筆者が出席し、具体的な活動内容について説明した。出席者からは、「三角巾を使う救護訓練には、地域の方も参加してよいのか。」などの質問や、「炊き出し訓練が、30分間ずつとなっているが、もう少し時間をもらえないか。」などの要望が出された。そこで、意見や要望に応える形でプログラムや時間を変更し、当日を迎えることとした。

防災訓練の活動内容の中に、三角巾を用いた応急手当をすることができるよう、「救護訓練」を位置付けた。高学年の児童が知識や技能を身に付ければ、十分「共助」や「公助」に取り組むことができると判断したからである。この防災訓練の中の活動内容については、「土曜日ならではの」特徴の一つである「柔軟な教育活動の実施が可能」という観点から、異年齢集団を用いた活動にした。そうすることで、異年齢の児童同士のかかわりが生まれ、特に高学年の児童の「学習意欲」が喚起されると考えたからである。しかし、少人数グループ毎に「救護訓練」を行うには、指導する講師がグループ分必要となる。そこで、夏季休暇中に職員研修として「救護の仕方を指導できるようにするための研修会」をもつこととした。以下に、当日の日程（表3）と「地域合同防災訓練」の様子を示す。

表4 当日の日程や活動の様子（当日は雨天につき、ゴシック体の活動は中止）

	チューリップグループ(各学年1組)	ひまわりグループ(各学年2組)
8:10 地震発生(想定・震度6)	8:10～	避難勧告発令・避難開始
～8:50	避難完了(各教室にて出席確認・健康観察)	
9:00～ 9:10	開会式(運動場)	
9:10～ 9:30	初期消火訓練(運動場) → 体育館で講義に変更	
9:40～10:10	簡易心肺蘇生訓練(体育館)	救護訓練(5つの教室) ※6の2は炊き出し訓練のお手伝い
10:10～10:40	救護訓練(5つの教室) ※6の1は炊き出し訓練のお手伝い	簡易心肺蘇生訓練(体育館)
10:40～11:00	水防訓練・消防訓練の見学(運動場)	
11:00～	閉会式(運動場) 炊き出しをもらって下校	

当日は雨天だったため、体育館において開会式を行った。その後行う予定だった「初期消火訓練」にかわり、雨天プログラムであった「地震に備えるためにできること」という題目の講義を消防署員から受けた。

心肺蘇生訓練では、簡易訓練器「あっぱくん」を用いた訓練活動に真剣に取り組む児童の姿が多く見られた。異年齢集団（8人程度）に3台ずつ配布し、消防署員の指導の下で行った。

救護訓練は、異年齢集団ごとに5つの教室に分かれて実施した。職員研修で学んだことを基にして、学級担任が講師を務めた。3年生以下の児童がけが人役となり、4年年生以上の児童が救護訓練に取り組んだ。

以下に、「地域合同防災訓練」を終えた後の児童および教師の感想を示す。



親子で登校する様子



「開会式」の様子



簡易心肺蘇生訓練の様子



救護訓練の様子

【児童のアンケート記述より】

- ・地域と方と合同でやることで、本当に災害が起きた時の動きを想像することができたのでよいと思った。(6年児童)
- ・だれかを助ける時にはどうすればよいか分かったし、なかよしグループの子といっしょにしっかり勉強できたのでよかったです。(5年児童)
- ・ふだん体験できないことができてよかった。もしさいがいがおこったらどうすればよいか分かった。(4年児童)

【教師のアンケート記述より】

心肺蘇生訓練は、消防士の方から教えてもらいながら、全員が体験することができてよかったと思います。救護訓練は、けがをした人への三角巾を使った応急処置の体験で、やり方を覚えるのは難しかったかもしれませんが、こういう事態への対応を体験することに意義があったと思います。場面を想定した活動で、なかよしグループの中で、低学年の子がけが人役で、高学年の子が応急処置する役割分担はよかったと思います。

「地域合同防災訓練」について全校児童対象にアンケート調査を行ったところ、図10のような結果となった。防災訓練で行った2つのプログラム（心肺蘇生訓練・救護訓練）については、9割以上の児童が満足していた。アンケートの結果や児童の記述からも、児童に貴重な体験活動に取り組ませることができたと考える。

雨天時のプログラムの講話や、体験活動において、「災害に備えて準備しておくことよいこと」等を学ぶことで、防災への意識が高まったと感じる児童が、全体的で8割以上となった。中には、「三角巾の使い方が難しかった」「炊き出し訓練をやりたいかった」等の理由から、防災への意識が高まらなかったと答える児童もいた。

初めて取り組んだことであるため、昨年度との比較はできないが、児童の防災への意識の高まりから、児童に豊かな体験活動を提供することができのではないかととらえた。

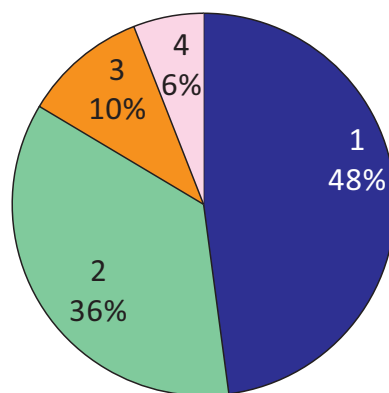


図10 「防災訓練を実施したことで防災への意識が高まりましたか？」に対する回答の割合 (n=286)

- 1：とても高まった
- 2：高まった
- 3：あまり高まらなかった
- 4：高まらなかった

「土曜日等の教育活動」にかかわる情報をさらに広く発信するために、新聞記事掲載を通じた広報活動に取り組んだ。

平成27年度に行う「土曜日等の教育活動」の日時と内容を新聞社に伝え、掲載を依頼した。その結果、8月上旬に岐阜新聞社の方から「学校紹介」の記事掲載の承諾を得た。発行が9月29日に決定していたため、直前に実施した第3回と第4回の「土曜日等の教育活動」の内容を記事にってもらうこととした。(図11)



図11 活動の様子が岐阜新聞に掲載
(平成27年9月29日付)

5. 成果の検証

本研究実践による「土曜日等の教育活動」の有効性を検証したり、意識を把握したりするために、児童や保護者、教職員等を対象にアンケート調査を実施した。

(1) 児童・保護者対象のアンケート (H26とH27) の比較・分析

平成26・27年度に児童・保護者とも共通のアンケートを実施し、比較・分析した。アンケートの質問項目は、大きな柱として「実施及び実施回数」「内容」「実施による成果・課題」の3点を設定した。(表5参照。項目⑯⑰⑱については、H27のみ実施。) 図12がその結果である。また、平成27年度に実施したアンケートについては、児童や保護者の「土曜日等の教育活動」への満足度に関与する要因を明らかにすることを目的として、「満足度」を被説明変数とする重回帰分析を適用した。分析は、学年の発達段階を考慮し、1～3年生と4～6年生に分けて分析した。統計解析には、SPSSver.23.0を用いた。表6は、「満足度」に有意に関連があることが明らかになった要因である。(詳細は表7参照。)

表5 児童・保護者アンケートの質問項目

I. 実施及び実施回数について	
①	土曜授業が実施されてよかった。
②	実施回数(年間10回、月に1回程度)は適切だ。
③	実施時期(主に毎月第1土曜日)は適切である。
II. 「土曜日等の教育活動」の内容について	
④	今年度の土曜授業の内容に満足している。
⑤	土曜授業では、学力向上を重視した授業を実施してほしい。
⑥	土曜授業では、体験を重視した活動を実施してほしい。
⑦	土曜授業では、学校行事や児童会行事を実施してほしい。
⑧	土曜授業では、地域の人材を積極的に活用してほしい。
III. 「土曜日等の教育活動」実施による成果・課題	
⑨	実施により、お子さんの学習への関心や意欲が高まった。
⑩	実施により、お子さんはリズムのある生活することができた。
⑪	実施により、親子の会話が増えた。
⑫	土曜授業の日に、お子さんは普段通り登校できた。
⑬	実施後の月曜日に、お子さんは普段通り登校できた。
⑭	実施による、スポーツや習い事等の活動への支障はない。
⑮	実施により、お子さんに寝れは見られない。
⑯	実施により、お子さんの「防災」への関心が高まった。
⑰	実施により、お子さんの「科学」への関心が高まった。
⑱	実施により、お子さんは土曜日を有意義に過ごせた。

※上記質問項目は、保護者用の文言で表記

表6 児童および保護者の「土曜日等の教育活動」への満足度に関連があった要因

	児童	保護者
I. 実施及び実施回数	<ul style="list-style-type: none"> ①土曜授業の実施 ③土曜授業の実施時期 	<ul style="list-style-type: none"> ①土曜授業の実施 ③土曜授業の実施時期
II. 土曜授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ⑦学校行事や児童会行事の位置付け ⑧地域人材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥体験活動の重視 ⑦学校行事や児童会行事の位置付け ⑧地域人材の活用
III. 実施による成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ⑨学習への関心・意欲の高まり ⑪親子の会話の増加 ⑰科学への関心の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨学習への関心・意欲の高まり ⑪親子の会話の増加 ⑭他行事への支障のなさ ⑮子どもの疲れのなさ ⑯防災への関心の高まり

表7 重回帰分析の結果

【下学年児童「満足度」×「土曜授業実施」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
2 (定数)	.672	.164			4.105	.000
①実施	.360	.085	.369		4.261	.000
③時期	.201	.080	.217		2.505	.013

a. 従属変数④満足

【下学年児童「満足度」×「土曜授業の内容」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
2 (定数)	.469	.137			3.431	.001
⑧人材	.405	.061	.471		6.665	.000
⑦行事	.312	.070	.316		4.479	.000

a. 従属変数④満足

【下学年児童「満足度」×「土曜授業の効果」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
2 (定数)	.507	.156			3.249	.001
⑨意欲	.427	.067	.482		6.405	.000
⑫科学	.260	.093	.211		2.806	.006

a. 従属変数④満足

【下学年保護者「満足度」×「土曜授業実施」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
2 (定数)	.950	.149			6.390	.000
③時期	.226	.081	.284		2.798	.006
①実施	.208	.084	.251		2.474	.015

a. 従属変数④満足

【下学年保護者「満足度」×「土曜授業の内容」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
3 (定数)	.742	.178			4.156	.000
⑥体験	.202	.095	.211		2.132	.035
⑧人材	.165	.078	.207		2.132	.035
⑦行事	.153	.074	.197		2.063	.041

a. 従属変数④満足

【下学年保護者「満足度」×「土曜授業の効果」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
5 (定数)	.319	.202			1.577	.118
⑨意欲	.199	.074	.237		2.693	.008
⑩有意義	.279	.095	.330		2.930	.004
⑪防災	.207	.072	.235		2.893	.005
⑬支障	.152	.056	.231		2.728	.007
⑰疲れ	-.154	.072	-.220		-2.143	.034

a. 従属変数④満足

【上学年児童「満足度」×「土曜授業実施」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
2 (定数)	.489	.168			2.900	.004
①実施	.458	.076	.472		6.038	.000
③時期	.266	.075	.277		3.540	.001

a. 従属変数④満足

【上学年児童「満足度」×「土曜授業の内容」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
1 (定数)	1.476	.156			9.484	.000
⑧人材	.375	.065	.428		5.794	.000

a. 従属変数④満足

【上学年児童「満足度」×「土曜授業の効果」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
3 (定数)	.527	.175			3.012	.003
⑨意欲	.336	.079	.351		4.230	.000
⑫科学	.236	.082	.242		2.903	.004
⑬会話	.175	.077	.187		2.259	.025

a. 従属変数④満足

【上学年保護者「満足度」×「土曜授業実施」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
1 (定数)	.983	.120			8.181	.000
①実施	.396	.059	.518		7.080	.000

a. 従属変数④満足

【上学年保護者「満足度」×「土曜授業の内容」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
2 (定数)	.408	.165			2.472	.015
⑥体験	.355	.070	.376		5.068	.000
⑧人材	.309	.066	.349		4.707	.000

a. 従属変数④満足

【上学年保護者「満足度」×「土曜授業の効果」】 係数^a

モデル	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
2 (定数)	.382	.140			2.737	.007
⑬会話	.372	.063	.434		5.951	.000
⑱有意義	.290	.062	.343		4.707	.000

a. 従属変数④満足



図12 児童及び保護者対象のアンケート結果

(2) 教職員対象のアンケートの結果の分析

平成27年12月に、「土曜日等の教育活動」の内容や運営にかかわる教職員からの評価を把握するため、アンケート調査を実施した。具体的な質問項目を表8に、結果を図13に示す。

表8 教職員アンケートの質問項目

1. 土曜授業に「補充学習」を位置付けたことについて（総合評価有）	
① 保護者等に「学習支援ボランティア」として協力してもらったこと	
② 「iブリ」を活用し、国語や算数の復習に取り組んだこと	
2. 土曜授業に「行事」を位置付けたことについて（総合評価有）	
① 「1年生を迎える会（5/9）」を位置付け、保護者等に公開したこと	
② 「運動会（9/19）」を位置付け、保護者等に公開したこと	
③ 「校内音楽会（12/5）」を位置付け、保護者等に公開したこと	
④ 「6年生を送る会（2/27）」を位置付け、保護者等に公開すること	
3. 土曜授業に「出前講座」を位置付けたことについて（総合評価有）	
① 「おもしろ科学教室（6/6）」を位置付けたこと	
② 「犯罪被害防止教室（10/3）」を位置付けたこと	
③ 「命の学習（10/3）」を位置付けたこと	
4. 土曜授業として「防災訓練」を位置付けたことについて（総合評価有）	
① プログラムに「心肺蘇生訓練」を位置付けたこと	
② プログラムに「救護訓練」を位置付けたこと	
5. 「土曜日等の教育活動」の円滑な運営について（総合評価有）	
① 担当者の提案は、分かりやすかったか。	
② PTAからの協力を得るために、PTA執行委員会に出席すること	
③ PTAからの協力を得るために、PTA総会で活動内容等を説明したこと	
④ 理解・協力を得るために、学校運営協議会で提案したこと	
⑤ 現状把握や改善に生かすため、児童や保護者対象にアンケート調査を行うこと	

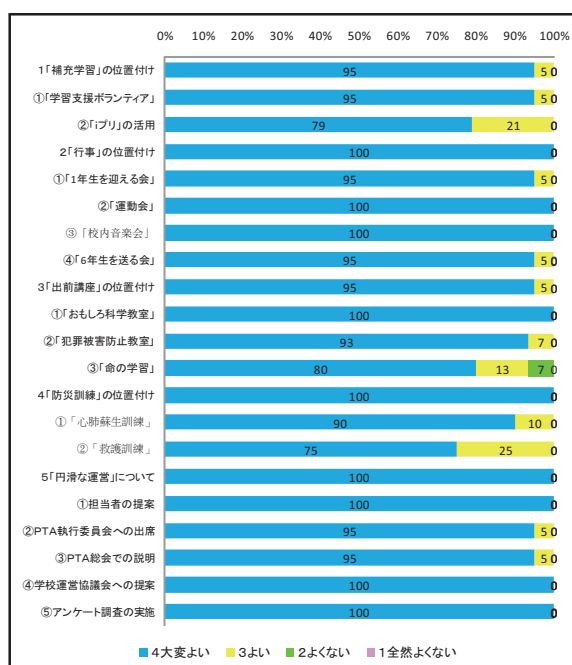


図13 教職員アンケートの結果

どの項目においても、ほとんどが肯定的な評価となった。また、運営にかかわる項目においては、全てにおいて肯定的評価が得られた。筆者が開発・実践した教育プログラムの内容や、運営システムが適していたととらえた。

また、アンケートに記述された意見の中には、次年度に向けての提案型のものもあった。これは、今年度の実践により、教職員が「土曜日等の教育活動」を有効にとらえ、肯定的に考え、さらに改善していきたいと願う感情が表出された証である。教育内容や運営システムだけでなく、教職員の意識を変えることができたことも、成果であると言える。

6. 成果と課題

児童や保護者、教員対象のアンケート結果等をふまえ、実践による成果は、以下の4点になる。

○「土曜日等の教育活動」の内容に満足感を表す児童・保護者の増加

「土曜日等の教育活動」の内容に満足感を表す児童・保護者の割合は、前年比でそれぞれ4.7ポイント、5.6ポイント増加した。また、その満足感には、本開発実践で取り組んだ4つの具体的方策（①学力向上②豊かな体験活動③行事の位置付け④連携・協力）のうち、3つ（②③④）が有意に関連していることが明らかとなった。このことから、「土曜日等の教育活動」の内容に満足感を表す児童・保護者が増加したことが成果の1つと言える。

○児童の「学習意欲の向上」

「土曜日等の教育活動」実施により、「学習意欲が向上した」と感じた児童・保護者の割合は、前年比でそれぞれ10.0ポイント、15.8ポイント増加した。これは、保護者や地域人材を積極的に活用した「補充学習」を実施したり、学校行事を保護者や地域住民に広く公開したりしたことの成果であると言える。

○「開かれた学校づくり」の実現に寄与

図14は、保護者アンケート（学校評価資料）の結果である。（4段階評価で実施。4・3の合計を「○」、2・1の合計を「△」で集計して表示。）

「土曜日等の教育活動」として、多くの学校行事や児童会行事を位置付けてきた。それらを保護者や地域住民に広く公開し、実施後には学校だよりの配付やホームページへの掲載等で紹介し、広く情報発信してきた。その成果がアンケート項目⑤や⑦の結果となって現れている。「土曜日等の教育活動」にかかわる児童・保護者対象のアンケート結果からも、行事の位置付けが内容の満足感に有意に関連していることから、「開かれた学校づくり」の実現に寄与できたことが成果の1つとして挙げられる。

項目	実施年月		○	△
	H27.12	H27.1		
①お子さんは、授業中に举手したりつぶやいたりして、主体的に学習に取り組んでいる。	H27.12 H27.1	80.5% 78.5%	19.5% 21.5%	
②学校は、分かりやすい授業づくりに向けて、指導の工夫や改善を行っている。	H27.12 H27.1	96.5% 95.8%	3.5% 4.2%	
③お子さんは、本に興味をもち、学校や市の図書館で本を借りたり読んだりしている。	H27.12 H27.1	69.8% 69.6%	30.2% 30.4%	
④加納小学校の特色ある活動（なかよし遊び、なかよし掃除、集会活動、オペラ等）は、お子さんにとって有意義な活動である。	H27.12 H27.1	97.6% 96.5%	2.4% 3.5%	
⑤学校は、保護者や地域と連携し、その力を生かしながら教育活動を行っている。	H27.12 H27.1	97.5% 92.3%	2.5% 7.7%	
⑥学校は、お子さんに悩みや相談があった時には、親身になって対応している。	H27.12 H27.1	95.0% 91.5%	5.0% 8.5%	
⑦学級・学年・学校からのたよりやPTA広報等を通して、学校や子どもたちの様子をよく知ることができる。	H27.12 H27.1	98.9% 92.9%	1.1% 7.1%	
⑧お子さんは、家庭での学習（宿題や見つけ勉強）に楽しんで取り組んでいる。	H27.12 H27.1	69.0% 72.2%	31.0% 27.8%	
⑨お子さんは、家族や地域の人たちに元気のよい挨拶や返事、言葉遣いできている。	H27.12 H27.1	71.5% 70.6%	28.5% 29.4%	
⑩家庭での仕事を家族で役割分担して、お子さんは、役割をしっかりと果たしている。	H27.12 H27.1	63.5% 62.5%	36.5% 37.5%	

図14 平成26年度（1月実施 n=231）と平成27年度（12月実施 n=239）の比較

○「土曜日等の教育活動」の円滑な運営

筆者が「土曜授業コーディネーター」を務め、校内において学校長と教員をつなぎ、授業の立案・計画し、円滑な運営の指示に取り組んだ。また、「土曜授業コーディネーター」が、学校運営協議会やPTA執行委員会の一員となり、教育活動の内容を提案したり、協議したりした。さらに、PTAや外部団体等との渉外活動にも取り組んだ。そのような「運営システム」を構築したことで、コミュニティ・スクールに学校支援地域本部の機能をもたせ、校外のシステムと協働した教育活動を展開することができた。「土曜日等の教育活動」を円滑に運営することができたことが成果の1つと言える。

以上の成果から、本開発実践による「土曜日等の教育活動」のねらいである「児童のためのより豊かで有意義な土曜日」を実現することができたと判断する。

本実践を通して考えられる、今後の「土曜日等の教育活動」実施に向けた課題は、以下の3点になる。

●実践した教育活動プログラムの内容の見直し

この開発実践で初めて試みた「補充学習」や「出前講座」、「地域合同防災訓練」や、「土曜日等の教育活動」として広く保護者や地域住民に公開してきた各種学校行事の内容を一つ一つ見直していくことが必要である。この「見直し」とは、実施するかしないかという意味ではなく、よりよいものにするため、また、より連携・協力して取り組んでいくために工夫・改善していくという意味で用いている。

例えば、「補充学習」では、使用する教材や教科を改善したり、協力者をさらに増やすために広報活動を活発にしたりすることが考えられる。「地域合同防災訓練」では、登校（避難）の仕方を改善し、地域住民と一緒に登校するように改善したり、子どもの活動に保護者や地域住民が参加しやすいような環境を設定したりすることが考えられる。「出前講座」については、内容を精選し、市だけでなく県やNPO法人にまで依頼を広げたりすることが考えられる。このように、一つ一つの教育活動プログラムを組織が中心となって見直していくことが課題の一つに挙げられる。

●持続可能な取組とするための「引き継ぎ」

本開発実践において、筆者が「土曜授業コーディネーター」を務め、教育活動プログラムを開発したり、運営システムを構築したりしてきた。これらの取組を持続可能なものとするために、確実な引き継ぎが必要不可欠となる。「土曜授業コーディネーター」の役割を明確化するとともに、文書データや渉外活動の方法

などを、今後の取組のために引き継いでいかなければならない。異動があっても持続可能にしていくことが大切であると考えている。

●「土曜授業コーディネーター」の負担減少

これは、2つめの課題ともつながるが、どんなに持続可能な取組とすることができても、「土曜授業コーディネーター」への負担が多くなるとは、だれも引き受けたくなくなってしまう。教職員の中には、筆者の取組に対する負担感への懸念を示す者もいた。「土曜日等の教育活動」は年間で10回とはいえ、毎回の活動を「土曜授業コーディネーター」だけに任せてしまえば、他の教員の負担は減るものの、担当者への負担は増えてしまう。

そこで、本開発実践でも取り組んだが、「土曜授業コーディネーター」が中心となって取り組む教育活動プログラムと、他の担当者が中心となって取り組む教育活動プログラムバランスよく配置したり、できることは他の教職員と仕事を分け合ったりすることが大切である。例えば、本実践で取り組んだ「補充学習」においては、児童が取り組む補助教材（学習プリント「iプリ」）は、筆者が全校児童分印刷・配付を行った。担任の教員からは大変ありがたき思われたが、中には「印刷は手伝わせてください。」との声もあった。細かいことではあるが、担当である「土曜授業コーディネーター」が行うべきことと、他の教職員でも取り組めることをうまく分業していくことが必要である。

今後、勤務校においては、来年度（平成28年度）の「土曜日等の教育活動」を計画していくわけだが、以上3点の課題の解決を図りながら計画していきたいと考えている。

【参考文献】

- 1) 文部科学省（閣議決定）、2013.6.14、「第2期教育振興基本計画」
- 2) 文部科学省、2013.6.30、「土曜授業に関する検討チーム中間まとめ」
- 3) 文部科学省、2013.9.30、「土曜授業に関する検討チーム最終まとめ」
- 4) 文部科学省生涯学習政策局、2014.1.17、「放課後及び土曜日の教育活動支援に関する資料」
- 5) 文部科学省、2014.7.25、「公立小・中・高等学校における土曜日の教育活動実施予定状況調査」結果について
- 6) 中央教育審議会生涯学習分科会、2014.6.25、「子供たちの豊かな学びのための放課後・土曜日の教育環境づくり～“あったらいいな”を形にする夢の教育～」今後の放課後等の教育支援の在り方に関するワーキンググループ
- 7) 樋口修資、2015.3、「学校週5日制下の土曜授業実施の考察」、明星大学研究紀要教育学部第5号